

日本スポーツマスターズ2019 ぎふ清流大会レポート

9月14～16日の3日間、岐阜メモリアルセンター内“で愛ドーム”にて、スポーツマスターズぎふ清流大会-空手競技が開催されました。スポーツマスターズの空手競技は、男子は40歳以上、女子は35歳以上を対象とした形・組手の大会であり、年代ごとに区分が分かれています。本大会の初日には、県内の厳しい選考会を勝ち上がり、組手1部(40～44歳)の滋賀県代表として、平成13年卒業の大野秀一さんが出場されました。結果は残念ながら1回戦敗退でしたが、試合内容は3分の試合時間をフルに使い切る壮絶な打ち合いでスコアは僅差。惜しくも勝利を逃す形となりました。写真は試合後に撮影させていただいた一枚。来年の愛媛大会に向けまた稽古に精進されるとのことで、これからのますますのご活躍をお祈りしています。本大会の2日目には、私が地元神戸の道場で小学一年生からお世話になっている先生が形7部(70歳以上)に、最終日には現在愛知県にて所属している道場の先生が形1部(40～49歳)に出場されたこともあり、3日間の全ての競技を観戦しました。この3日間で感じたことは、マスターズの大会は、絶対に負けられないという雰囲気漂う、学生の大会や



国体といった大会とは大きく異なるということ。一試合一試合が時間をかけて大切に進行されます。勝った選手も敗れた選手も、試合後にお互いの健闘を讃えるといった光景がほぼすべての試合で見受けられ、大野先輩の言葉をお借りすると、まさに「空手を愛する人の集まり」といった空気が始終漂っていました。競技の内容は、トップリーグで活躍する現役選手や学生の試合と比べれば、俊敏さや技のキレ、力強さなどは劣るかも知れません。しかしそこには長年積み上げてきた気迫や凄味、そして体が覚えているという感覚的な何かが存在しています。形に関しては、特に年齢が上の部ほど、何千回・何万回もの稽古によって「自分の物にしている」ことが見ていて伝わり、ぐっと惹き込まれます。組手においては、大技による逆転劇や思いもよらないところで飛び出す後ろ回し蹴りなどに会場が湧いていました。今大会の期間中、たくさんの新しい出会いや再会があり、非常に楽しい三日間でした。これもマスターズならではのようです。

[記]岡 駿資(平25工)

千葉県流山市でOB技術講習会を開催しました。



2018年9月16日(日)、恒例のOB技術講習会を開催しました。今回の講習会は、自宅で病氣療養中の大久保和司さん(工43年卒、元清空会会長)のお見舞いを兼ねて、最寄りの流山市・東部公民館で開催、見学の方も含めて、13人の会員が参加しました。なお、東部公民館は、大久保さんのお弟子さんである里見親幸さん(幸和塾主宰、和道会千葉県本部長)のご厚意により提供いただきました。



清空会では奇数月の第二日曜、午後3時からOB技術講習会を行っています。会場は河野道場(相模原市陽光台4-8-16)です。稽古内容は、基本・形・約束組手などです。各自が無理のない範囲で、自由に稽古に参加します。稽古後には淵野辺駅周辺で懇親会も開催します。皆様のご参加をお待ちしております。

宗重叡幸君、現役学生で3段合格



9月22日、和道会の昇段審査があり、4年の宗重叡幸君が3段に合格しました。宗重君は小学生のころに5年ほど松濤館流で空手をやっていたものの、国大空手部には2年から入部し、和道流は3年程の経験ですが大変熱心に稽古を続け、今回の合格に至りました。国大空手部の歴史の中でも現役中に3段を取得したのは希少で、彼の努力を讃えたいと思います。

横浜国立大学 空手道部の歌

作詞・作曲 大庭 実(経済学部40年卒)

1. 白雲は飛ぶ 清水ヶ丘に
草木も揺るがす 気合の炸裂
青春の夢を託したる ああ国大空手道部
2. タベは辿る 常盤の台に
我等が血潮の 滾りて止まず
ここに溢るる清和の光 ああ国大空手道部
ああ我らが空手道部